

## 紙芝居とITの融合で「心の教育」がパワーアップ!

2007年度にAJOSCの助成で完成した「心の教育」プロジェクトの3種類の紙芝居が、高い評価を受けている。社団法人「小さな親切」運動本部では、全国から寄せられた意見などを参考に、プロジェクトを推進するため、紙芝居のモデル授業をDVDにまとめて全国に無料提供しはじめた。

授業の進め方が難しい「心の教育」。そこで実習映像をDVD化。

社団法人「小さな親切」運動本部が、「みんなでしんせつさんになろう」をスローガンに作成した3種類の紙芝居のことは、昨年度の報告書でお知らせしたので記憶されている方も多いだろう。小学校低学年向けの「しんせつってなあに?」、中学年向けの「マー君いいところあるじゃん」、高学年向けの「折り鶴の奇跡」の3つの紙芝居はその後、全国の小学校に貸し出され、好評を博した。とともに、さまざまな意見も集まった。

同運動本部の事務局長 山橋由貴子さんは

◇授業展開		展開	留意点等	板書、貼付イラスト等
(0~13)13分	【全員が着席したことを確認し、授業スタート】			
■担任教師	講師紹介			しんせつってなあに?
■授業者A	あいさつ 今日の学習内容紹介と簡単な自己紹介 授業者Bの紹介			
■授業者B	自己紹介			
ポイント1 「しんせつ」の概念を想起させる				
■授業者A	授業者Bに「しんせつってなあに?」と質問			しんせつってなあに?
■授業者B	児童に「しんせつって、なんだろう」と発問			
	発問1 子どもたちに行った親切、された親切の体験を聞く			
■授業者A	児童の発言に対するコメント 紙芝居の開始を促す			
■授業者B	紙芝居①~⑩までをゆっくり読む			
■授業者A	子どもたちに「紙芝居の中身を思い出してみよう」と呼びかける			
(14~18)4分	ポイント2 ともちゃんがりこにしている理由を考えさせる(親切にした人の心の動きに気づかせる)			
■授業者A	白板にともちゃんがボタンを押している場面と、にこにこ顔を貼る			
■授業者B	絵を示しながら(場合によっては、子どもたちのところまで絵を持っていきながら)発問			
	発問2 ともさんがりこにしている理由			

配布しているマニュアル

## 「紙芝居による『心の教育』プロジェクト

## ～みんなで『しんせつさん』になろう～事業

「例えば、こちらの教材の方が低学年にはよいのではないかと。この紙芝居を使ってうまく授業ができる方法を知りたいというような実践的なご意見を伺いました」と語る。

教育の現場から集まった声に手応えを感じた同本部では、さらにわかりやすく楽しい授業をしてもらうため2008年度はいくつもの教材を開発した。

そのメインとなるのが、紙芝居を使ったモデル授業のDVDだ。掛川市立 中小学校の協力で実際に行った授業の様相を収録したのである。その内容を少しご紹介する。

「みんなあ、親切ってどういう意味だかわかるかな?」と先生が尋ねると、子どもたちが手を元気にあげる。先生に指名された男の子が「人ができないことを手伝ってあげる」と答えた。他の子は頷いたり、首をかしげたりしているが興味津々という感じだ。紙芝居をみせたあとは、みんなに登場人物の気持ちなどを尋ねたり、ロールプレイを行って実体験を行い、最後に自分の意見などを発表したり、ワークシートに記入するようなプログラムだ。

子どもたちをどのように紙芝居に引きつけていき、感情を引き出すのかなど、ライブの臨場感が伝わってわかりやすいものになっている。



「小さな親切」運動本部のホームページから、紙芝居・指導マニュアル・小道具など素材のダウンロードやモデル授業のサンプル動画も視聴できる。



小道具を黒板に貼り付けわかりやすく授業が進む



紙芝居を使った授業の様子

### 指導マニュアルと小道具が授業を盛り上げていく。

このDVDを補強するために同本部では指導マニュアルと小道具も用意した。どちらもPDFで同本部ホームページ内に納められていて、無料でダウンロードができる。

指導マニュアルには、「シナリオのどこで何をポイントにするか」や途中でしておきたい質問、紙芝居を読むときの注意事項が並んでいる。

## 助成団体 社団法人「小さな親切」運動本部

http://www.kindness.jp/

担当者より



より多くの人たちに教材を利用していただけるようになりました。

社団法人「小さな親切」運動本部  
事務局長  
山橋由貴子さん

AJOSCのご助成をいただいた紙芝居をより多くの学校で使っていただくことを目的に、今回の改良を行いました。生徒さんや先生方からの反応はたいへん好意的なものばかりです。紙芝居という媒体が伝えるものは想像以上でした。これからも「心の教育」プロジェクトを推進していきますのでよろしくお願いたします。

例えば

【(主人公の)ともちゃんがニコニコしている理由を考えさせる(親切にした人の心の動きに気付かせる)】というポイントがあり、【「ありがとう」と言われるとニコニコしてしまう理由】を子どもたちに聞いてみましょう。という設問のヒントが書かれている。

小道具の方は、黒板に貼り付けることのできる、登場人物のイラストや板書のタイトルだ。これを黒板に貼りながら、質問をすることで子どもたちの理解はぐんと深まり、文字を書く時間も省けるのでスムーズに授業が展開するのだ。前述のマニュアルには、どのタイミングでこうした道具を使うかというヒントも書かれていて、非常に細かく配慮されているといえるだろう。

また、もう少し大きなサイズの紙芝居でないか、みんなで見るができないというような要望もあった。大型の紙芝居はコストもかかってしまうので、その代わりにPDF版の紙芝居を用意してダウンロードできるようにした。パソコンとプロジェクターを使えば、大きな画面で見られるようになったのである。できあがった教材は早くも活発にダウンロードされて使用されているという。

今いちばん日本に必要なものは「心の教育」だろう。この試みがさらに促進されるよう見守っていきたい。